

■世界の人口 68億人

2009年版「世界人口白書」によると、世界の人口は、前年に比べて約7970万人増え、68億2940万人になった。人口の動態は人間がどのように生き、行動しているのかを示す指標であることや、日本では人口の減少が政治上の課題とされていることなどを考えると、このニュースを導入として、様々な学習を展開することが可能であると思われる。

人口を社会科学習で扱う際には、「人口数」「人口の密度と分布」「人口増減」「人口の移動」「人口構成」「人種や民族」などの概念を的確に理解させ、多面的、多角的な視点から、人口の統計を活用できるような学習活動を設定することが大切である。

地図帳の人口に関する主題図（p.117）を活用する場合でも、「人口が多い国」「人口の分布」に着目させるだけでなく「人口が増加している国と減少している国」にも着目させ、人口構成や平均寿命などの統計や、産業統計などを活用しながら、地域における人口問題の違いを説明させる学習なども設定したい。



■飢餓人口 10億人突破

国連世界食糧計画によれば、世界で飢餓に苦しむ人口が2009年に初めて10億人を突破したことが明らかになった。また、国連世界食糧計画では、国別の飢餓率を地図化したハンガーマップを公開している。この地図を見れば、アジア、アフリカ、南アメリカに飢餓人口が多いことが一目でわかる。

ハンガーマップ（国連世界食糧計画）

この地図は、公民的分野の南北問題の学習等で扱うことができるだけでなく、地理的分野において、地図帳の日本の食料自給率や世界からの食料輸入（p.119）と組み合わせて学習を深めることもできる。食料自給率40%（カロリーベース）の日本は、多くの食料を輸入しているが、飢餓率が高い国からも食料を輸入している。

また、日本を含めた先進国が飼料や植物油のために多くの穀物を消費している（牛肉1kgのために穀物は8kg必要）ことや、日本の食品ロスは500～900万t（農林水産省2009年）もあることなどと組み合わせた学習を設定すれば、世界中から多くの食料を集めて贅沢をしながら、一方で大量の食料を廃棄している日本の課題を、生徒の日常生活の目線からも考えさせられる。（さいたま市立白幡中学校 青柳敬二）